



イノチオ診断室からの 病害虫情報

2021年
2月号



耐病性品種は黄化葉巻病の症状に注意が必要です！
特徴的な症状が抑制されている可能性があります。



芽先の黄化や萎縮

病原名	ウイルス： Tomato yellow leaf curl virus (TYLCV)
症状	上位葉の黄化や葉巻症状、節間の詰まり、株全体の萎縮 など
発生条件	▶ 感染源：虫媒介(土壌・種子・汁液等からは感染しない) ▶ 媒介虫：タバコナジラミバイオタイプB(シルバーリーフコナジラミ) タバコナジラミバイオタイプQ
対策	▶ タバコナジラミの防除 ▶ 物理的防除(開口部に0.4mm目の防虫網) ▶ 施設周辺の除草 ▶ 発病株は直ちに土中へ埋めるか、ビニール袋で蒸し込むなどして処分 ▶ 発生施設では収穫終了後施設を密閉・高温にして殺虫する。

※農薬はラベルを
確認後ご使用
ください。

ネギハモグリバエ(別系統)

【被害】

従来のネギハモグリバエ(A系統)では1葉あたり1,2匹程度の幼虫が葉の表裏を交互に加害する(食害痕は不規則な破線状)が、B系統では1葉あたり5匹以上の幼虫が葉の表側のみを集中的に加害する(食害痕は一繋ぎ)傾向がある。

【発生状況】

平成28年に国内で初確認してから令和3年までに**23都府県**にて確認されている。

⚠️ 要注意病害虫情報 ⚠️



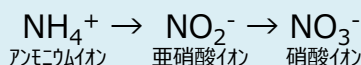
A系統(左)およびB系統(右)幼虫の潜孔

※植物防疫所病害虫情報
第121号(2020年7月15日)より引用

土壌コラム

第6回：アンモニア態窒素

土壌中の窒素のうち、アンモニア態窒素は有機物の分解・硝化の過程で発生する窒素です。畑作土壌であれば、アンモニア態窒素は速やかに変化するため、土壌に多く残ることはありません。



アンモニア態窒素が多く残っている場合は、上記の硝化作用が働いていないことになります。原因としては

- ・酸素が足りない ➡ 土壌が緻密、排水性が悪い
- ・硝化細菌が働けない ➡ pHが低い、ECが高い、硝酸態窒素が過剰などが考えられます。

何れの場合も**土壌状態が悪い状態**と言えます。対策は原因次第で異なりますが、**高畝にして排水性を上げる、pHを矯正する**などが挙げられます。



気象庁1ヵ月予報



気温：高い

降水量：ほぼ平年並み

日照時間：ほぼ平年並み

過去の診断室情報は
右のQRコードから！
毎月の防除情報も
配信しています！

